

(別紙1)

自己評価及び外部評価結果
作成日

令和 5年 2月 1日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3092100050		
法人名	株式会社 葵		
事業所名	あおい介護センター 梅香丘温泉グループホーム		
サービス種類	認知型対応型共同生活介護		
所在地	和歌山県日高郡みなべ町埴田1540番地67		
自己評価作成日	令和5年2月1日	評価結果市町村受理日	令和5年3月29日

【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	(基本情報リンク先URLを記入)
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 カロア
所在地	大阪府泉佐野市泉ヶ丘4-4-33
訪問調査日	令和5年3月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは2ユニット制となっており定員は18名の事業所となります。安らかに穏やかな気持ちで過ごして頂けるような環境を作り、安心して生活が出来るよう支援しています。それぞれの出来る事を生かし役割を持ち利用者同士助け合いながら楽しみを増やし、表情豊かに暮らせる努力をしています。日課ではラジオ体操やリハビリ体操などの軽い運動や、皆様が楽しんで参加出来るようなレクリエーションを取り入れたり、施設内の畑に農作物を植え草引きや収穫も職員と一緒にいき、調理して提供しています。施設のお風呂は温泉を引いており、温泉浴となっております。海や山にも囲まれ、自然豊かな環境の中で毎日の生活を過ごして頂いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

現在コロナ禍において、様々な制限が設けられていると推測しますが、こちらではレクリエーションや行事等に参加している利用者の豊かな表情を映している「あおいしんぶん」を毎月家族や関係者に郵送しており、ホームでの活動状況を発信することで、家族は信頼感を得ています。また、入浴を嫌がる高齢者が多い中、こちらのホームでは事業所名に記載されている通り天然温泉を引いているので、入浴を好まれる利用者が多くなっており、保清に繋がっています。さらに高齢者施設において、対面での近い方との交流は非常に重要な要素だと考えますが、こちらでは面会時間を15分間に制限してはいますが、アクリル板を活用する等、感染対策をしっかりと取り、利用者と家族が顔と顔を合わせられるよう配慮しています。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「気持ちに向き合い寄り添う」「その人らしいあり方を大切に」「切れ目なく望む暮らしを支える」を理念とし、職員のチームワークを高め、より良い支援に繋がれるように取り組んでいる。	理念は玄関先の目につきやすいところに掲示され、全ての利用者が自宅に居るような生活ができるようにとスタッフが考えたものになっています。また、スタッフ会議の中でも共有が図られています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染予防対策として外出して地域と交流する機会は減少しているが、他施設ケアマネや社協などと情報交換を行ないながら、地域とのコミュニケーションを図っている。	社会情勢の影響により、地域との交流の機会は減少していますが、その中でも町長が毎年葉牡丹を持ってきてくれたり、ホーム独自の新聞を作成し、それを地域住民に配ったりしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍において、地域に出て直接対面で活動するのは困難ではあるが、事業所の活動状況など運営推進会議の書面にての報告や、毎月発行しているあおい新聞を地域に配り、活動報告をしています。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在も対面での運営推進会議は中止しているが、ホームでの取り組み・活動状況やヒヤリハットの事例などを書面にて報告を行っている。疑問や意見があれば対応出来る体制を取り、家族様や地域の方々との信頼関係を築いている。	運営推進会議は社会情勢を鑑み、開催されおらず、書面にて町長・社協スタッフ・包括スタッフ・家族にそれぞれ送付し活動状況を把握してもらっています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の書面での開催や、市町村担当者様に現状報告し、助言を頂きながらサービスケアに取り組んでいる。	コロナ禍前は地域ケア会議に出席していました。また、コロナの影響による助成事業の相談や介護保険に関する相談を包括スタッフに相談しています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員とは身体拘束について話し合いをし、出来る限り身体拘束をしないケアに取り組んでいる。情報の共有化・問題点の明確化を行ない防止に努めている。	ホームの前は即国道になっていますが、こちらでは日中は玄関を開錠しています。また、スタッフ会議において身体拘束に関する議題を取り上げ、検討会を開いています。	

7	<p>○虐待防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待については、身体のみならず精神面への虐待についても注意深く観察し、職員のストレスが虐待に繋がらないようコミュニケーションを図っていく。</p>		
8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>特別変化があった時のみ連絡の希望があるので、その時は報告や相談をしている。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時にはサービス内容について、ご本人様・ご家族様の思いを十分に聞き取りながら、しっかりと説明を行ない理解して頂ける様努めている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族様に対しては、ケアマネージャーが中心となり書面や電話で利用者様の状況をお伝えし、意見や要望を聞き取り実践の場で活かせる様ケアに努めている。</p>	<p>現在、コロナ感染者が落ち着いてきたため、面会時に意見や要望を直接聞き、スタッフ会議等で検討した上で上部に報告し、運営に反映させています。</p>
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>職員とのコミュニケーションは常に取るように努め、日々業務上気付いた課題や情報は言い合える雰囲気や関係を築いている。情報・課題・意見・提案を共有しケアに反映している。</p>	<p>管理者はスタッフが何でも喋る事ができるよう、普段から心がけており、普段の仕事の中でスタッフから自然と意見や要望を聞く機会を持っています。また、何かあった場合は個別対応で話をしています。</p>
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>職員とのコミュニケーションを大事にし、ストレスや疲労を減らせるように職員が自らの能力を活かして働けるような環境作りを心掛ける。</p>	
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>施設内で定期的に勉強会をしており、最近では「摂食嚥下」について、誤嚥や窒息のリスク軽減や予防について勉強会を行った。今後も様々な内容の勉強会を企画し、スキルアップに繋げていく。</p>	
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>コロナ禍で対面での交流は出来ていないが、電話での聞き取りなどで意見交換を行なっている。今後も電話相談を中心に連携に努めている。</p>	

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事前の面談で、可能な限り話を聞き、ご本人様の不安な部分を表情や行動から読み取れるよう努めている。わかりやすくGHの取り組みを説明し安心して頂けるようにする。	
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にケアマネジャーが電話や訪問での面談で家族様の不安な事や要望をお聞きし、入居後は体調や状態変化について電話報告を行い、来所時に意見を頂けるように、職員も家族様と常に気軽に連絡を取れる様努めている。	
17	○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入前の相談の段階から、利用者様・家族様の要望や訴えに耳を傾け、何を必要としているのかしっかりアセスメントを行ないケアプランを作成する。	
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の個性や性格を見極めながら、他の利用者様の話し相手や家事など役割を持って頂く。施設の中で利用者様がお互いを支え合うケアが出来るよう心掛けている。	
19	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃必要な事や家族様に希望している事・本人の思いなどをケア報告書にて報告している。連絡を密にし、信頼関係構築に努めている。	
20	8 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様への電話の取次ぎも行い、面会に関してもマスク着用・アクリル板を挟み感染対策をしながら休憩室での面会を行ない、出来る限りご本人様に馴染みの方や家族様とのゆっくり会話する時間を作っている。	ヘアカットに関して、基本的に美容師が訪問し、カットしますが、家族の援助により以前からの馴染みの美容室に行く利用者がある等、本人の希望に柔軟に対応しています。
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で会話や作業・レクリエーションや趣味活動等を行ない交流を図り、協力して生活出来るよう支援している。職員が間に入り孤立しないように人間関係を把握している。	
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても地域住民として家族様と会う機会もあり、これまでの関係性を大切にしている。	

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	<p>日常会話や言動・表情の中から一人一人の思いや意向を理解し、過ごしやすいうように考え支援している。その様子を家族様に伝えている。</p> <p>インテークの際にアセスメントを実施し、利用者・家族の希望や要望を聞き、それをスタッフは把握しています。また、アセスメント票はスタッフ全員が自由に閲覧できるように事務所に設置しています。</p>
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	<p>ご本人・ご家族様・関係者からの聞き取りや情報提供してもらった内容を詳しく知り得る事で、これまでの生活全般の把握に努めている。</p>
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	<p>毎日の申し送りや全体ノート・日々の記録等で心身状態や現在出来ている事、支援が必要な事、したい事を見極め変化の有無の把握に努めている。</p>
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>ご本人の希望や意向、ご家族様の意向も確認しながら、日々の見守りの中で気付いた事・アイデアについても検討し、カンファレンスで意見を出し合い、偏った見方にならないように職員間で意見交換を行なっている。</p> <p>介護計画書は介護支援専門員・担当職員・利用者によるカンファレンスを開催した後に3か月に1度見直しをおこなっています。モニタリングも3か月に1度実施しており、利用者の意向や身体状況を把握し、日々の援助に繋がっています。</p>
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>記録の中に気づきや変化を記入し、職員全体で情報を共有し、サービス計画の見直しに活用している。</p>
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>サービス計画書に沿って支援しながらも、日々の気づきや御本人様の声も聞きニーズに応える事が出来るよう柔軟な支援サービスが提供出来るように取り組んでいる。</p>
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>コロナ禍の中で外部との交流等は出来なかったが、2月の花見の時期の梅林ドライブや、施設内にある畑にさつまい芋を植え、その収穫作業や美化活動にも参加して頂き、季節ごとの活動支援に努めている。</p>

30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している</p>	<p>基本的には入居前からのかかりつけ医を継続し、定期受診や月二回の往診で利用者様が適切な医療を受けられるよう支援している。</p>	<p>基本的には、以前からのかかっていた馴染みの病院の受診ですが、希望があればホーム医を利用することが可能で、何かあればすぐにも対応できる体制をとっています。</p>	
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>週に一度訪問看護で健康状態を報告し、利用者様の事で気になる事があれば、その都度相談し、かかりつけ医の看護師にも連携を取り健康管理に努めている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院した際は、情報提供書を作成し提供して日頃の状態を報告している。相談員や必要時には直接病棟看護師と連絡を取り、情報共有・交換している。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居の際にはご家族様に看取りの説明を行っている。かかりつけ医や協力期間と話し合い、ご家族様のその時々意向に沿った判断が出来るよう支援している。</p>	<p>入居時に重度化や終末期に向けて様々な選択肢があることの説明を行い、ホームでの看取りも可能で、本人や家族の意向をその都度聞きながら支援しています。また、経験の浅いスタッフが対応に困った時でも、いつでも管理者が対応できる体制をとっています。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時対応マニュアルを作成し、ホールにも急変時の対応の手順を掲示している。急変の場合どの職員でも対応出来るようにしている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>ホールや事務所に災害時の避難場所の掲示をしている。いつ災害が起きるかわからないので、職員には役割分担を頭に入れスムーズに誘導出来るようにしている。</p>	<p>ハザードマップを活用し、ホーム内に避難場所を提示し、定期的に避難訓練をおこなっています。備蓄も水やカンプン等を用意し、定期的に点検をおこなっています。</p>	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>尊厳を大切に自身やご家族様に立場を置き換え、暖かく安心できる対応を心掛けている。入浴や排泄時の支援には周りに配慮した声掛けを行っている。</p>	<p>一人の高齢者として尊厳を持って、常日頃から利用者に接し、プライバシーに配慮した言葉遣いに気をつけ、声のトーンを抑え、入浴・排泄介助では周りに配慮し、気持ちよく過ごして頂けるよう努めています。利用者への呼びかけは、敬意と親しみで苗字か名前に「さん」付けでお呼びしています。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>意思表示が出来る方にはご本人の希望を尊重し、自己決定できるよう働きかけ、困難な方には普段の会話や行動・表情を元に個々のニーズに応じた支援に努めている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一日の生活リズムは、無理強いする事なくご本人のペースに合わせ、体調に配慮しながらレクなどに参加して頂いてる。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>着替える際にはご本人と一緒に服を選び、その方に合った身だしなみやおしゃれが出来るように支援している。訪問カットを定期的に行ったり、ご本人様行きつけの美容室へ行くなどの支援を行っている。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>季節に応じた食材を用いたおやつレクをしたり、施設内の畑で収穫した作物を調理し提供したりと、美味しく食事が出来るように支援している。</p>	<p>配食業者より献立と食材が届き、ホームにて食材を温めて盛り付けし、利用者に食事を提供しています。また、テイクアウト食・おやつ作り・畑で収穫した作物を調理・家族からの差し入れ等で利用者の楽しみとなっています。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>一人一人の好みや嫌いな食べ物・アレルギー等を把握し、必要に応じて個別メニューで提供している。栄養管理も行い、栄養バランスの良い食事を提供している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後の口腔ケアを実施しており、義歯を付けられている方は夕食後に義歯を預かり洗浄剤につけている。</p>		

43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>トイレでの排泄を基本としており、個々の排泄パターンを把握しトイレ誘導している。トイレの仕方がわからない方もいらいらするので、その都度対応している。万が一失敗した場合も傷つかないよう配慮した声掛けをしている。</p>	<p>排泄チェック表を用いて適時の誘導により、なるべくトイレでの自立した排泄に向け支援しています。オムツ使用の方でも日中はトイレでの排泄を勧めるなど職員間で協力し自然な排泄の場を提供しています。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>自然排泄が出来るよう多めの水分補給や、軽めの運動を行っているが、それでも便秘傾向の方もいらいらするので主治医と相談し下剤を服用している。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>利用者様の体調を把握し、入浴を楽しんで頂けるよう個別でシャンプーを用意し使っている。入浴を好まない方には声掛けや別日にするなどの工夫をし入浴して頂く。</p>	<p>本人の希望や体調に配慮しながら入浴を支援し、清潔を保持しています。身体機能が低下した利用者に対しては2人介助で安全な入浴支援をおこなっています。また、お風呂は温泉をひいており、温泉浴となっています。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>利用者様の状況に応じて、日中でも休息したい方は居室で休んで頂き、ゆったりとした自分だけの時間を過ごせるように、自宅で使い慣れた布団を持参して頂いたり、ご本人の状態に応じて居室のインテリアや温度調整をしている。</p>		
47		<p>○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>医師から処方された薬は正しく服用できるように支援しており、体調の変化があれば主治医と相談している。嚥下しにくい錠剤がある場合は粉末にして飲みやすくしたり、誤嚥がないように注意を払い確実に服薬出来ているか確認している。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>個人に合わせ役割を分担したり、洗濯たたみや掃除なども職員と一緒にやっている。読書や塗り絵などを楽しんで頂いたり、自宅で楽しんでいた物を施設でも楽しんでもらえるよう支援している。</p>		

49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>気分転換に東屋でおやつをしたり天気の良い日は施設周辺を散歩したり、梅や桜の季節はドライブに出掛けたりしている。</p>	<p>コロナ禍もあり従来のような外出支援は難しくなっていますが、ドライブに出かけたり、ホーム周辺の畑や散歩をしたりと可能な限り戸外に出かける機会を大切にしています。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>買い物はご本人様の所持金で希望に応じた買い物を職員が代行して行ったり、ご家族様が買い物をして施設に持ってきてくれる事もある。紛失がないよう預り金は事務所で保管している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>ご家族様や遠方の親類やご友人からの電話などを繋いだり、年賀状や暑中見舞いなど季節の絵手紙を出したりしている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>室内温度と換気に配慮し、玄関やホールに季節の花を飾ったり、正月やハロウィン・クリスマスなどイベントがある時は、利用者様と一緒に飾り付けを行っている。</p>	<p>適時の換気、適切な温度・湿度管理が行われています。リビングでは座る場所の制限はかけず、気の合った方同士がくつろげるよう配慮しています。玄関やリビングには、行事の写真や季節を感じさせる創作品などが飾られ、居心地よく過ごせるよう工夫しています。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ホールでは座る席は自由だが、自分の座る場所がある事で安心される利用者様もいる。今後も特に座る場所の制限はかけず、気のあった方同士でくつろげるように配慮する。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ご家族様には、ご本人様の使い慣れた家具や馴染みの物を持参して頂き、お孫さんやご友人との写真を飾ったり、お好きな絵を壁に貼るなど、自宅のように安心して過ごして頂けるよう努めている。</p>	<p>馴染みの家具、家族や友人の写真、装飾品などを持ち込み、好みの配置をすることで自宅に近い環境で居心地よく過ごせるよう工夫しています。定期的に温度や湿度の確認がこなわれています。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>自宅・トイレ等迷いやすい方にもわかりやすいように、ホールに案内板を掲示している。迷っている方には声掛けし誘導を行い見守りしている。</p>		

V アウトカム項目		
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない

65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない